



がん細胞に見られる遺伝子変異は結果である。

がん細胞で、数種類～数十種類の遺伝子に変異が頻発する理由



がん細胞は、がん化した後に、生存に有利に働くDNA変異を、敢えて誘発するよう行動する。

その方法は、例えば「がん抑制遺伝子」と呼ばれている遺伝子のクロマチン構造を活性化状態にし、各種の変異原がアクセスしやすいようにする。

その結果として、がん抑制機構が働かなくなり、がん化、及び、増殖が容易になる。

及び、「がん原遺伝子」が乗っているクロマチンの部分を活性化状態にしてがん化を進めると共に、そこにDNAの活性化変異が起これば、それは修復せずに活かす。

**不活性化クロマチン**  
様々なものが遺伝子に作用し難い状態

**活性化クロマチン**  
様々なものが遺伝子に作用し易い状態